

(様式1)

個別施策評価調書

主管部	経済部	
関係部	-	-
	-	-

基本施策	IV-12
個別施策	① 観光の振興
個別施策の方向	自然、歴史、文化や、研究・教育機関など数多くの観光資源を活用することにより、つくばならではの空間とストーリーを創出し、観光地としての向上を図り、グローバルな視点から国内外の誘客の拡大に向けた取組を進める。

決算及び事業費内訳 (単位：千円)											
H27年度	決算	事業費	166,745	人件費	73,460	事業コスト	240,205				
	事業費内訳	国庫支出金	15,000	県支出金	19,800	地方債	0	その他特財	8,966	一般財源	122,979
H28年度	決算	事業費	143,394	人件費	69,419	事業コスト	212,813				
	事業費内訳	国庫支出金	15,000	県支出金	20,975	地方債	26,700	その他特財	1,358	一般財源	79,361
H29年度	決算	事業費	91,193	人件費	73,600	事業コスト	164,793				
	事業費内訳	国庫支出金	0	県支出金	0	地方債	5,740	その他特財	771	一般財源	84,682

市民満足度 (市民意識調査)	H27年度	H29年度	前回比
つくば市の現状やまちづくりへの取組について	28.4%	28.1%	-0.3%
33) 観光の振興			

平成28年度つくば市行政経営懇談会 評価結果		
総合評価	A	施策の成果が確認でき、このまま継続して推進させるべきである。
提言	正確に成果を把握するための指標について、多角的なデータを積極的に活用し、工夫されたい。	

取組概要	<p>ハード面では、筑波山にウェブカメラの設置（5基）、筑波山梅林内の整備工事、駐車場や公衆トイレ等の施設の維持管理事業に取り組み、ソフト面では、まつりつくばを始め各種イベントの開催、都内や圏央道沿線での誘客キャンペーンの実施及びパンフレット設置、研究機関の特性を活かしたサイエンスツアーの実施、入込客数調査の精度強化、つくばコレクションの認証制度を活用したつくばブランド化の推進などに取り組んだ。</p> <p>また、筑波山地域ジオパークについては、これまで行ってきたボトムアップによる推進体制の構築、行政・市民団体・研究機関との連携などの活動が認められ、平成28年には認定を受けることが出来た。現在、アクションプランに基づき、PR動画やパンフレット（3ヶ国語）の作成・配布、ジオツアーの開発実施、ジオ関連商品の開発など、さらなる観光振興に努めているところである。</p>
成果	<ul style="list-style-type: none"> ウェブカメラの整備により、山頂等からの景色や中腹の交通状況や気象情報を24時間リアルタイムで配信することが可能となり、来訪者の利便性が高まった。 筑波山梅林内の見返り縁台の再整備により、中腹から眺める景観が来訪者の人気を博している。 まつりつくばにおいては、毎年新たな企画を導入することで、平成29年度はこれまでの平均来場者数（約45万人）を大幅に増大させる（約55万人）ことが出来た。 誘客キャンペーン開催箇所やパンフレット設置箇所の新規開拓により、新たに埼玉・群馬方面からの誘客が図られた。（入込客数調査時に目視により確認） つくばコレクション等の市内の物産品を、イベント出店等により市内外に広くPRし、物産品の普及、販路拡大に寄与することが出来た。 平成29年度には、認定ジオガイド養成講座をボトムアップで開催することにより、本ジオパーク初の認定ジオガイド42名が誕生し、来訪者の受入体制が整いつつある。 市内教員と共にジオパーク学習の先進地の事例を学んだことで、市内の学園生を対象とした座学や実施研修をスムーズに実施することができ、ジオパーク学習の浸透が図れた。
今後の課題	<ul style="list-style-type: none"> 筑波山頂の観光施設では湧水を飲料水等に利用しているが、近年その水量が減少し断水となることがあるため、来訪者にご迷惑をかけることがあり、湧水対策の必要がある。 まつりつくばは今後も来場者増が見込まれ、周辺にマンションも新設されるため、パレード会場（土浦学園線沿い）付近の安全対策等を、さらに強化していく必要がある。 誘客事業として、来たる東京オリンピックなどを見据えながら、インバウンド誘致に向けた効果的な情報の発信やPR手法の強化を進めていく必要がある。 市内物産品のさらなる販路拡大を推進するとともに、つくばコレクション認証商品のステータスやイメージをさらに高める必要がある。 誕生した認定ジオガイドの知識をさらに高め、誘客体制の充実を図る必要がある。 ジオパークの教育活動を、市内全域の学園に浸透させる必要がある。 活動強化のため、ジオパーク推進協議会の事務局体制をさらに強化する必要がある。 市内におけるジオパーク拠点施設及び看板の整備をさらに充実させる必要がある。
改善目標	<ul style="list-style-type: none"> 筑波山頂の水道施設については、湧水対策緊急工事を早期に実施するほか、効果的な維持管理を見据えた周到な湧水対策調査を行い、今後の施設整備計画に活かしていく。 まつり実行委員会内のパレード部会や危機管理対策班、さらに警察等と協議し、ハード、ソフト両面からまつり会場の安全確保のための対策を講じる。 つくば市が所属する広域の各種連絡協議会や観光関係の民間業者等と連携して、インバウンド受入のための体制強化とインバウンド誘致に向けたPR強化を進めていく。 つくば市物産館（つくば駅構内）を活用し、物産品のPR及び販売を行うとともに、つくばコレクション認証商品のブランドレベルを高く保つための認証方法の検討を進める。 ジオガイドの知識を高めるため、数多くのスキルアップ研修を行っていく。 市内全学園にジオ教育を浸透させるため、計画的にエリアを拡大し、事業を進める。 ジオパークの事務局体制強化のために、ジオパークエリア各市（つくば市他5市）の担当部局とジオパーク担当職員増員のための話し合いを進めていく。 ジオパーク拠点施設については、最適な場所や機能等を考慮して計画を進めていく。また、ジオ看板については、設置個所の優先順位計画に基づき予算化し順次設置していく。

自己評価（所管部署評価）	
自己評価記述	<p>当市の入込客数は、平成17年のTX開通に伴い飛躍的に増加（約400万人）したが、平成23年に発生した東日本大震災等の影響で急激に減少（約316万人）した。その後、観光施設の整備や誘客キャンペーンを地道に進め、回復（平成29年、約385万人）傾向にある。このことは、上記の様々な個別施策が実を結んだ結果であり、評価に値するものと考えている。</p> <p>今後は、上記記載の「今後の課題」や「改善目標」に基づき、個別施策を有機的に繋ぎ、総合的な視点で事業を展開することで相乗効果を図りながら、観光の振興を加速化させていくべきであると考えている。</p>